

奥能登国際芸術祭作品公募 現地見学会レポート

2016年10月
奥能登国際芸術祭実行委員会



奥能登国際芸術祭について 3

現地見学会日程 4

現地見学会レポート

1日目 5

2日目 12

現地見学会について

現在募集中の奥能登国際芸術祭2017作品公募への企画提案を検討されている方に対して、作品展開の候補場所や奥能登珠洲の特徴がわかる場所をご案内するもので、企画立案の参考にしていただくために開催しました。

日帰り宿泊併せて32名の方のご参加があり、北川フラム総合ディレクターがバスに乗り込んで解説をしながら行いました。

このレポートでは、当日の様子を「作家用作品公募資料PDF」には掲載していない会場の写真も含めてお伝えいたします。

「作家用作品公募資料PDF」に資料が掲載されている会場は、その該当ページ数を記載しています。

なお、会場内部の見学についての個別対応はいたしかねますので、ご理解くださいませ。

奥能登国際芸術祭について

奥能登・珠洲は、能登半島の先端に位置し、周囲を日本海に囲まれた農山漁村です。黒潮（暖流）、親潮（寒流）がぶつかり、大陸からの季節風が海の水蒸気を含んで雨を降らし、外浦（北側）と内浦（南側）を有する独特の地勢も重なって、東西の植生が共存する豊かな植物・生物相につながっています。遣唐使、渤海使、北前船など、かつて日本海を舞台とした海上交易が盛んだったころ、さまざまな船が立ち寄り栄えましたが、海運から陸運に交通体系が変わったことで半島の先端という立地が弱点となり、過疎化が進行してきました。1954年に市制が施行された当時38,000人の人口は、現在では15,000人となっています。

珠洲は今までの価値観では日本列島のさいはての土地です。しかし日本各地の生活文化が集積し、そのあらわれである祭りはキリコ、曳山やヨバレの風習として今も残る日本文化の源流が湧き出ずる場所でもあります。それは今の時代、逆に希望のありかとしての特異点になるものです。

奥能登国際芸術祭は、その土地・生活・人々の魅力を再発見するアーティスト達が参加し、珠洲の人、地域外からのサポーターを含め大勢でつくりあげる、今までにない新しい芸術祭を目指しています。外浦から内浦にかけて展開されるアートは、奥能登の岬めぐりの新しい道しるべとなり、列島と大陸の関係を含めた親潮文化のこれからのあり方を示唆してくれることでしょう。旅の道中に味わう海と山の食材をふんだんに使った伝統的な料理、海からの神に関係するといわれるキリコ、珠洲焼、揚げ浜式の塩田、能登瓦などは、まさに日本文化の基層へと私たちを誘います。

地球環境の悪化と資本主義の倫理性が問われ、日本列島の成立と未来を考えなくてはならない現在こそ、珠洲の持っている日本文化の原型、忘れられた日本が意味深いものになるでしょう。伝統的な文化と最先端の美術が響きあう芸術祭をめざします。

奥能登国際芸術祭総合ディレクター 北川フラム

開催概要

コンセプト	最涯の芸術祭 ～日本の祭と食文化の源流を探る～
会期	2017年9月3日（日）～10月22日（日）
会場	石川県珠洲市全域
参加作家	50組（予定）
主催	奥能登国際芸術祭実行委員会
実行委員長	泉谷満寿裕（珠洲市長）
総合ディレクター	北川フラム
公式ウェブサイト	http://oku-noto.jp/



9月10日（土）

- 10：50 道の駅すず塩田村
 12：30 **旧日置小中学校 ☆** ※金沢発着バス合流
 13：20 昼食
 14：00 さいはて資料館（珠洲の民俗・生活文化資料の展示）
 14：40 **寺家舟屋群 ☆**
 15：30 **金沢大学能登学舎 ☆**
小泊保育所 ☆
 16：30 **鉢ヶ崎海岸 ☆**
わくわく夢らんど ☆ ※17：00 日帰りバス珠洲発
 17：15 古麻志比古神社
 18：00 宿へ
 18：30 宿にて夕食
 19：00 宿発
 19：30 蛸島町祭礼のキリコ・ヨバレ見学
 21：00 宿へ 宿泊

9月11日（日）

- 8：30 **飯田町商店街 ☆**
 （空き店舗、バス停、置屋等）
 乗光寺から町歩きをしながら候補地を視察
 11：00 **旧消防庁舎 ☆** （奥能登国際芸術祭実行委員会事務局）
 11：30 **珠洲市多目的ホール ラポルトすず ☆**
 12：00 昼食
 13：20 **旧柏原保育所 ☆**
 13：50 **すずサンサンパーク ☆**
 14：10 **見付公園 ☆**
 14：40 宗玄酒造
 15：00 珠洲発
 16：00 のと里山空港着
 18：00 金沢駅着

☆印は作品会場候補地です

珠洲は「外浦」と「内浦」という二つの地勢的特徴があります。珠洲岬を境に、輪島市方面を「外浦」、能登町方面を「内浦」と呼んでいます。1日目は輪島市から珠洲市内に入り、外浦から内浦に向かって海岸線をたどる「岬めぐり」を行いながら、会場候補地を見学しました。

①旧日置小中学校 別添資料6 ページ

のと里山空港または金沢駅から珠洲に入ったご一行がここで合流し、開会式を行いました。

市内でもっとも世帯数の少ない日置地区の小中学校です。珠洲市では、中学校部分を今年度中に簡易宿所として改修する計画です。制作活動等の宿舎として利用することが出来ます。作品候補場所は小学校部分です。



開会式の様子



小学校部分と中学校部分に挟まれた中庭



ホール



カウンセリングルーム、職員室
入り口

②能登さいはて資料館

珠洲市の観光名勝の一つである禄剛埼灯台のお膝元にある民俗資料館です。作品会場としての使用については要相談となります。

海に突き出ている能登半島の先端「さいはて」の珠洲は、海を通じて大陸とのつながりが感じられる場所です。この資料館には、外浦の海岸線に漂着するゴミを展示しています。外国語が書いてある洗剤やペットボトルが多いです。ゴミからも大陸とのつながりが感じられるのが特徴です。

■すず観光ナビネット「能登さいはて資料館」

http://www.city.suzu.lg.jp/kankounavi/spot/history/culture/noto_saihate_museum.html



館内の様子



街道沿い外観



入り口



海岸漂着ゴミの一例

③寺家舟屋群（三崎地区）

外浦と内浦の要素が混在している珠洲岬周辺の海岸線に、簡易の舟屋（個人所有）が集積しています。

美しい海岸線と人々の営みが同居している場所です。国定公園内なので各種規制がありますが、インスタレーションやパフォーマンスの会場候補場所として訪問しました。



舟屋群の手前の砂浜



簡素な舟屋が立ち並ぶ



寺家漁港に立つキリコ

ちょうどこの日は三崎町寺家の祭礼日だったので、寺家漁港にてキリコを見ることができました。

寺家のキリコは最大で16.5メートルあり、日本一大きいキリコです。キリコとは切子奉燈のことで、神輿の明かり役として担がれます。珠洲のキリコは総数100を超え、過疎の地でありながら地域住民で大切に守り続けています。

奥能登国際芸術祭のコンセプトは「最涯の芸術祭～日本の祭と食文化の源流を探る～」です。最涯の地だからこそ、日本各地の生活文化が集積している場所であり、その象徴が祭りであり、キリコ、曳山、ヨバレです。

珠洲は「日本文化の源流が湧き出る場所」であり、「今の時代、逆に希望のありかとしての特異点となる。」と北川フラム総合ディレクターは解説しています。

④金沢大学能登学舎（旧小泊小学校） 別添資料 8 ページ

珠洲市における世界農業遺産「能登の里山里海」、大学連携の取り組みの象徴となるのがこの施設です。

旧小泊小学校を珠洲市における里山里海教育の拠点として、金沢大学、NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海が入居し活動しています。「能登 里山里海マイスター育成プログラム」という人材育成も行っています。プログラム開講日には、「へんざいもん」というお母さん食堂のランチが楽しめます。

イベントやワークショップ、NPOが所有している保全林を使ったプログラム等が考えられます。

■能登 里山里海マイスター育成プログラム

<http://www.crc.kanazawa-u.ac.jp/meister/>

■NPO法人 能登半島おらっちゃんの里山里海

<http://www.satoyama-satoumi.com/oraccha/>



玄関にてレクチャー

⑤小泊保育所（2016年度をもって閉所） 別添資料 10 ページ

金沢大学能登学舎の裏に位置しています。

現在保育所として使用している施設のため、会場内の見学は行いませんでした。

⑥鉢ヶ崎海岸

県内屈指の透明度を誇る鉢ヶ崎海岸。夏は海水浴客でにぎわいます。

砂浜のすぐそばに松林があるのが特徴で、小さな水路やウォーキングコースが整備されています。インスタレーションやパフォーマンスが可能です。

松は鉢ヶ崎海岸のお膝元である蛸島町のキリコの装飾にも使用します。

鉢ヶ崎にはホテル、ケビン、キャンプ場、公園、温泉施設等が立地しており、観光の拠点です。

また、珠洲焼資料館（古陶の展示）、珠洲焼館（現代作家の作品販売）、陶芸センター（珠洲焼体験）が立地しており、珠洲焼の拠点でもあります。珠洲焼資料館には、かつての登り窯を復元した復元窯があり、年1回程度、珠洲焼の焼成を行っています。

■鉢ヶ崎リゾート

<http://hachigasaki.com/>

■珠洲焼資料館

<http://www.city.suzu.ishikawa.jp/suzuyaki/>

■珠洲焼館

http://www.city.suzu.ishikawa.jp/sangyosinko/suzuyakikan_2.html

■珠洲市陶芸センター

http://www.city.suzu.ishikawa.jp/sangyosinko/tougei_c2.html



砂浜



松の防砂林



水路やウォーキングコースもある



復元窯

⑦わくわく夢らんど (別添資料1 2 ページ)

木製の巨大遊具で、休日には多くの子ども達でにぎわいます。芝生広場に向かってステージが併設されており、毎年お盆には「太鼓と踊りの夕べ」というイベントが開催されています。

この場所でのイベントや新しい遊具の増設等、公園機能を保った状態での企画提案が条件となります。

日帰りの方はここで解散しました。

⑧古麻志比古神社 (こましひこじんじゃ)

若山町経念に所在する神社で、高麗系の渡来人を祖人とする説があり、大陸とのつながりが感じられます。

田植え後の稲につく害虫を松明で追い払い、豊作を祈る伝統行事「経念の虫送り」を、この神社の氏子会で運営しています。その害虫ウンカは、梅雨前線に沿って発達する気流に乗り、中国大陸から飛来します。

また、神社の境内には酒造りの神様「松尾神社」も鎮座しています。

珠洲の人々は冬出稼ぎに行きますが、その行き先の多くは酒蔵です。能登人はその気質からとてもまじめに酒造りに取り組み、その技術は高く評価されています。能登の酒造り技術集団を「能登杜氏」と呼び、日本四大杜氏に数えられ、能登杜氏の酒を楽しみにしている日本酒ファンもたくさんいます。



鳥居



境内



能登杜氏の酒樽が奉納されている

⑨蛸島町祭礼見学（キリコとヨバレ）

珠洲で一番の水揚げ量を誇る蛸島漁港がある蛸島町の祭礼を見学しました。

昔ながらの町並みが残る蛸島町を歩き、区長さん宅のヨバレにお邪魔しました。ヨバレとは、民家において主人が料理と酒でもてなす風習のことです。

奥能登国際芸術祭のコンセプトは「最涯の芸術祭～日本の祭と食文化の源流を探る～」です。最涯の地だからこそ、日本各地の生活文化が集積している場所であり、その象徴が祭りであり、キリコ、曳山、ヨバレです。

珠洲は「日本文化の源流が湧き出る場所」であり、「今の時代、逆に希望のありかとしての特異点となる。」と北川フラム総合ディレクターは解説しています。

■蛸島キリコ祭り（日本遺産「灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～」 活性化協議会ウェブサイトより）

<http://www.hot-ishikawa.jp/kiriko/jp/kiriko/takojima.php>

■第19回ふるさとイベント大賞 最優秀賞（総務大臣表彰）

奥能登珠洲の秋祭りと「ヨバレ」

（地域づくりTV）

<https://www.youtube.com/watch?v=I-7z4knEIKU>



区長宅にてヨバレ見学



キリコ

①飯田町商店街町歩き

珠洲市の中心市街地である飯田町。その商店街を町内会長さんのご案内で、毎年10月に開催している「越中おわら節 飯田風の盆」の踊り流しルートを意識した町歩きを行いました。

宿泊できるお寺「乗光寺」をスタートし、バスの待合スペース「あいあいパーク」☆、旧しげ寿司☆、大運寺、置屋（スナックJUEN）☆、西勝寺、春日神社、置屋（民家）☆、飯田わくわく広場☆、倉庫（個人所有）☆を順に見学しました。（※☆印は作品会場候補地）

道中、菓子店に寄り道し、珠洲の饅頭文化にも触れながら飯田の町を散策しました。

■飯田町商店街フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/iidamatishoutengai/>

■越中おわら節 飯田風の盆

<http://www.city.suzu.lg.jp/eventnavi/evt1424.html>

■飯田わくわく広場振興会

<http://wakuwakuhiroba.nt08.com/>



乗光寺



あいあいパーク☆



大町通り突き当りに位置する
旧しげ寿司☆



旧しげ寿司店内☆



置屋 (スナックJUEN) ☆内の水場



置屋 (スナックJUEN) ☆元店舗



西勝寺



置屋 (民家) ☆



飯田わくわく広場



倉庫 (個人所有) ☆

②旧消防庁舎

（現在、奥能登国際芸術祭実行委員会事務局として使用中）

別添資料14ページ

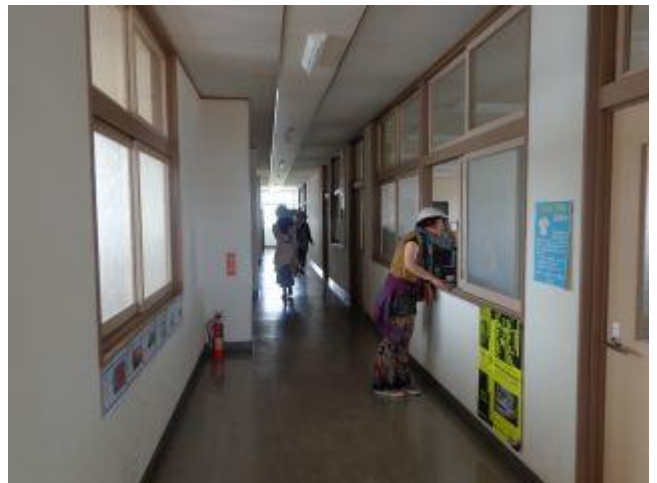
2016年3月まで珠洲消防署として機能していた施設で、現在は奥能登国際芸術祭実行委員会事務局となっています。かつて消防署だったので、仮眠室やシャワー室、訓練塔、広々とした車庫などの特殊な設備があります。

ひびのこづえさん作品候補地である旧飯塚保育所を整理した際に持ち出した物品（ピアノ、平均台など）も保管しています。こういったものを作品に利用することも可能です。

平日8:30-17:15であれば職員が常駐しております。お気軽にお越しください。



仮眠室



2階廊下



旧飯塚保育所から持ち出した壊れたピアノ

③珠洲市多目的ホール ラポルトすず

コンサートや演劇など多目的に利用できるホールで、館内には大小様々な部屋があります。すでに貸し館予約が入っている場合を除き、借上げることが出来ます。館外の芝生エリアに作品を展示することも可能です。

詳しい図面等はラポルトすずホームページをご覧ください。

■珠洲市多目的ホール ラポルトすず

<http://www.city.suzu.ishikawa.jp/laporte-suzu/>



市民ロビー

④旧柏原保育所 別添資料18ページ

宝立町柏原地区の保育所です。遊戯室から見える景色は、田園風景が広がっています。演劇の道具（マスク）やオルガンなど、保育所当時の備品が多く保管されていますが、そちらの利用については備品所有者である珠洲市福祉課との相談となります。



市福祉課の備品を保管



演劇等に使用したマスク

⑤すずサンサンパーク 別添資料16ページ

かつて宝立小学校が所在していた場所にメガソーラー発電所を設置しており、旧体育館を利用した太陽光発電のPR館、空き地を利用した風力発電の羽根の展示等を行っています。

珠洲市は、豊かな里山里海の自然とともに生きる人々の暮らしが今も息づいています。風力、バイオマスメタン発酵処理、メガソーラーをはじめとする再生可能エネルギーの導入が進められてきたほか（平成21年度には新エネ百選に選定）、廃校舎を活用した能登半島里山里海自然学校（金沢大学能登学舎）での人材育成事業の展開、珠洲市独自のエコポイント（自然共生ポイント）や珠洲市里山里海応援基金の活用などを通して、「自然と共生する珠洲市」の構築を目指しています。

■北陸電力 珠洲太陽光発電所PRコーナー

<http://www.rikuden.co.jp/pr/suzutaiyoukou.html>



風力発電のはね



整然と並ぶ太陽光パネルの先に、山手に立つ風力発電の風車が見える

⑥見付公園 別添資料20ページ

珠洲市の名勝「見附島」が位置する見付海岸沿いに整備された公園地です。

見学会当日、偶然にもキャンプサイト管理棟（写真の小屋）を管理されている方がその場にいらっしやいまして、「絵を描いても何かを置いてもいいので、ぜひ使ってください。」とおっしゃっていました。

海岸線ではなく、公園地を利用した企画のご提案をお願い致します。

■見附島

<http://www.city.suzu.lg.jp/kankounavi/spot/nature/viewspot/mitsukejima.html>



キャンプ場



キャンプサイト管理棟

作品公募に関する質疑については、FAX、郵送、メールのいずれかの方法で、下記の問い合わせ先までご送付ください。寄せられた内容を整理し、順次公式ウェブサイトにてPDFにて回答を公開いたします。

提出期間：10月17日（月）～31日（月）

※10月31日（月）必着・持ち込み不可

ご応募お待ちしております。